

# まちづくりって 「人と人とのつながりによって、 何かが発展していく」イメージです

地域のまちづくり活動の拠点となる「まちセン」ことまちづくりセンター。日々様々な人が訪れるまちセンを飛び出して、山鼻・曙まちセン両所長がぶらりまち歩き。ご一緒したのは、パフォーマンスを中心に活動している祭太郎。歩く中で見えてきた、町内会やまちづくりに対するそれぞれの想いとは？

曙まちづくりセンター 所長 長町 英一 ×

山鼻まちづくりセンター 所長 天野 周治 × 祭りの妖精 祭太郎



年代によって、地域への接し方も変わってくる？

—まずは自己紹介からお願いします。

**長町 (右)**：私は昨年の4月から曙まちセンにいます。直接、地域の方と接する仕事は初めてで。ここに来てまず「町内会活動って何だろう？」と考えることからのスタートでした。ちなみに、祭さんのその頭についているものは何ですか？

**祭 (中)**：これは……うさぎの耳です。プロレスが好きなので、覆面レスラーのイメージでかぶりものをしようかと。こういう格好で太鼓を叩いたり、路上で受け身をひたすら行ったりするパフォーマンスを、かれこれ12年くらい続けています。この辺に住んでいるので、東屯田通にはよく出沒しますよ。

**天野 (左)**：自分もプロレスが好きなので、今祭さんに対して一気に親近感がわきました(笑)。私も長町さんと同じく、昨年4月から山鼻まちセンにいます。技術職で、それまでは土木関係の部署にいました。地域で仕事をするのは初めてなので、色々勉強になります。

—祭さんは町内会を意識することはありますか？

**祭**：僕は6年前に京都に住んでいて、町内会に入ることが当たり前前の地域で、月一回集まりがあったり、年一回運動会があったり。コミュニティが密な感じで、意外とそれが心地良かった。今住んでいるところでは、近所付き合いはないですね。それはそれで支障はないのですが、災害とか何かあった時に、ちゃんと連携できるのか心配に思うことはあります。

**長町**：子どもの頃は、自分の住んでいる町内が唯一の世界で、お祭りやイベントにも参加していました。でも大人になるにつれて、町内会からはだんだん遠のいてしまいました。まちセンに異動してきてから、プライベートでも、ご近所付き合いを前より意識するようになったかもしれない。

年代によって、地域への接し方が変わってくる部分はありますよね。働き盛りの方にとっては、町内会活動にまで手が回らないのが、正直なところではないでしょうか。

**天野**：簡単な挨拶をすることから、少しずつ顔見知りになっていけばいいのかな。挨拶は結構大事で、挨拶を盛んにするまちは、犯罪が少ないらしいです。祭さんもゴミ出しの時に、率先して挨拶をして、近所付き合いを作って頂ければ。

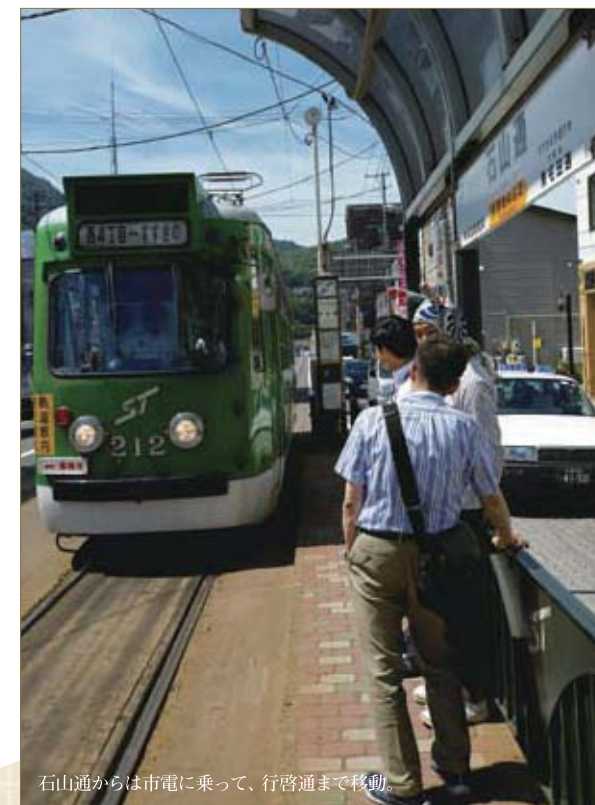


まず最初に、曙山鼻地区の昔の資料を札幌市立中央図書館でチェック。入植者の出身地や、古い地図を見て盛り上がる3人。

まちづくりでは「いかにコミュニケーションをとるか」が重要

—皆さんから見たまちづくりとは？

**長町**：町内会やまちセンが、地域に対して活動するキーワードは「安心・安全」。様々な見守り活動をしたり、生活道路に防犯灯を設置したり。ちなみに、市が管理している防犯灯には、番号入りの黄色いシールが貼ってあります。それ以外の防犯灯は町内会が管理して、電気代も町内会費から支払われているんですよ。



石山通からは市電に乗って、行啓通まで移動。